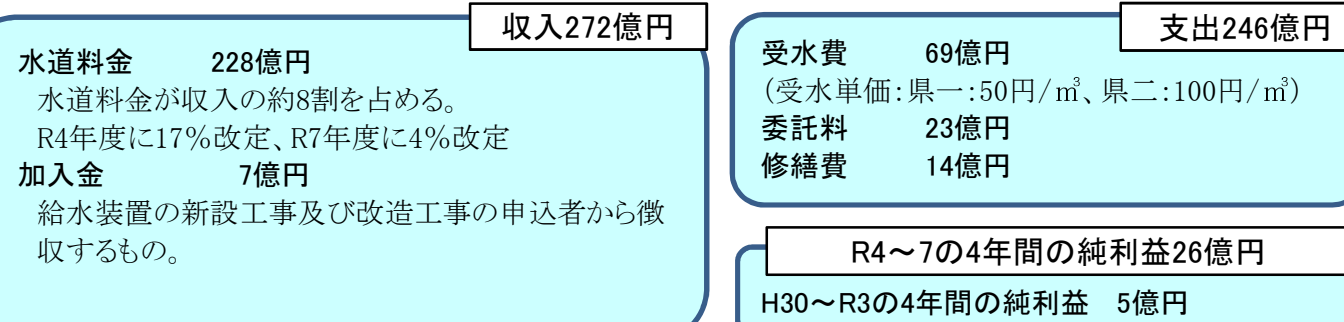


水道事業 令和4～7年度財政計画

＜水道事業＞地方公営企業法を適用する公営企業。公営企業管理者のもと、独立採算で運営。供用開始S4、法適用S29。普及率は99.9%。導送配水管延長は2,588km(R2末、なお北海道宗谷岬から那覇市間が直線で約2,500km)。施設数は126(中核市/57市中9番目に多い)。施設数は多いが、少ない職員数で事業運営している(中核市中12番目に少ない)。供給単価は他中核市と比較しても安価で提供できている(中核市中5番目に安い)。最終料金改定はH11(なお、通減制をH18に導入)。

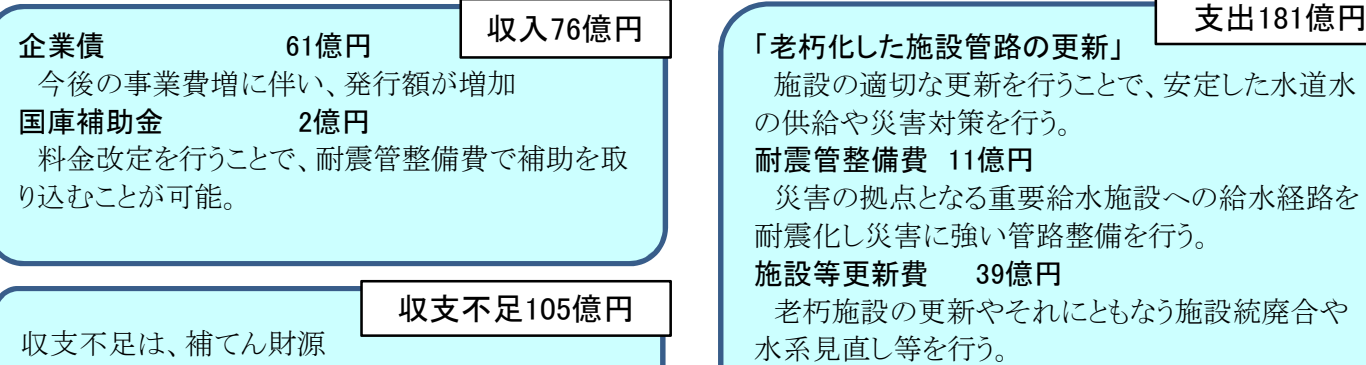
1 収益的収入及び支出（主なもの）（金額は計画期間4年間の合計【税抜】）



まとめ

R4～7の4年間は、料金改定を実施することで、赤字を回避し安定的な経営を継続。

2 資本的収入及び支出、補てん財源（主なもの）（金額は計画期間4年間の合計【税込】）



まとめ

R4～7の4年間は、老朽化が進む管路の耐震化や浄水施設等の更新事業に着手し、R7年度末には、災害用準備資金として繰越財源8億円を確保できる見通し。

3 料金算定（R4～7の水道料金で、料金原価をまかなうことができるか【税抜】）

水道料金 228億円 > 料金原価 221億円

まとめ

R4～7の4年間は、水道料金が料金原価(水道料金でまかなうべき原価)を上回り、健全な経営が可能となる状況である。

4 将来的な課題

管路や浄水施設等で更新時期を迎えるものが、将来的に増加するため、計画的に更新を行うとともに、耐震化を進めることで持続可能かつ災害に強い水道を作る必要がある。
また、経営状況についても、定期的な見直しを行い、適正かつ健全な経営を引き続き行う。

税抜

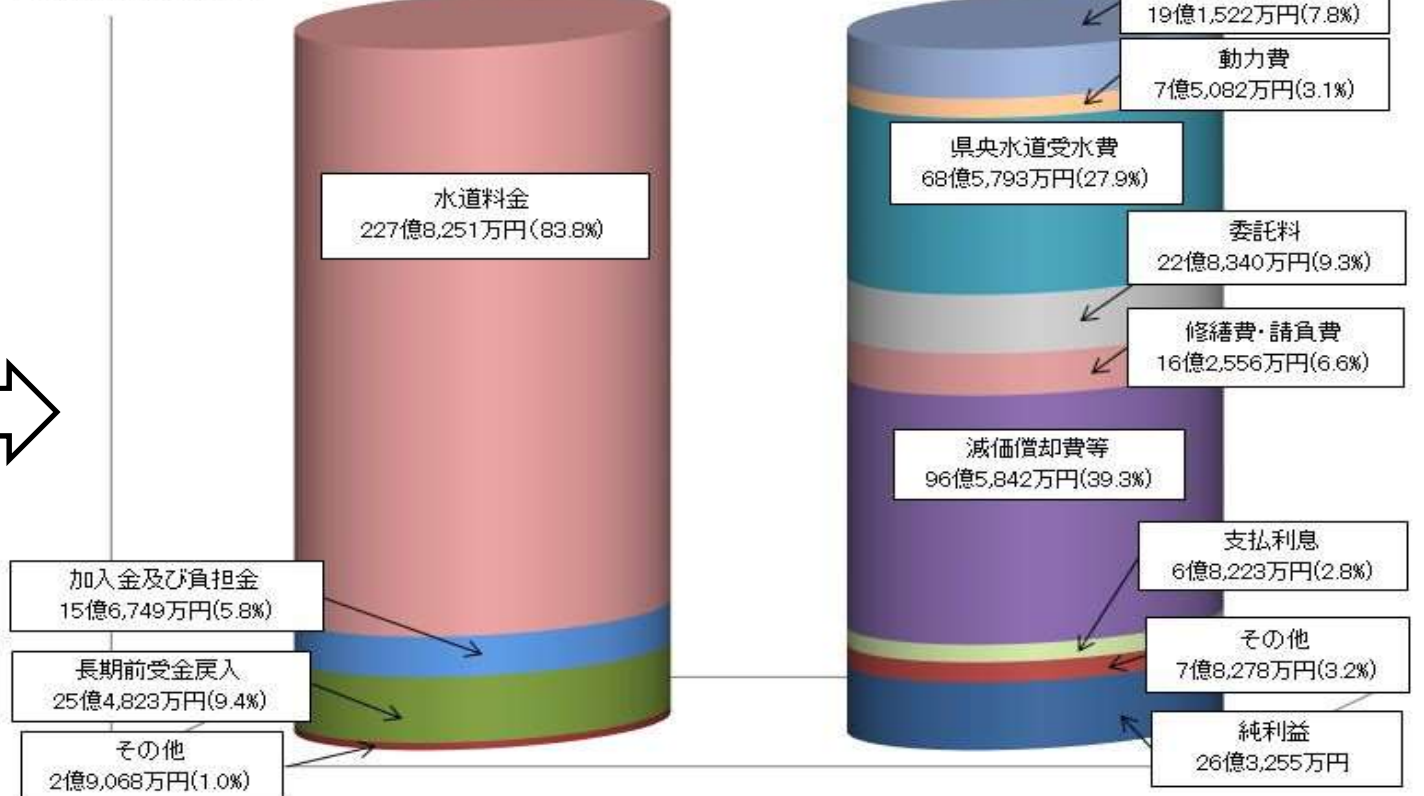
【収益的収支】…水道水を家庭まで届けるために必要な維持管理経費とその財源となる水道料金などの収支状況

資料2-1

収入合計271億8,891万円

支出合計245億5,636万円

()内は構成比、
金額は4年間の合計額



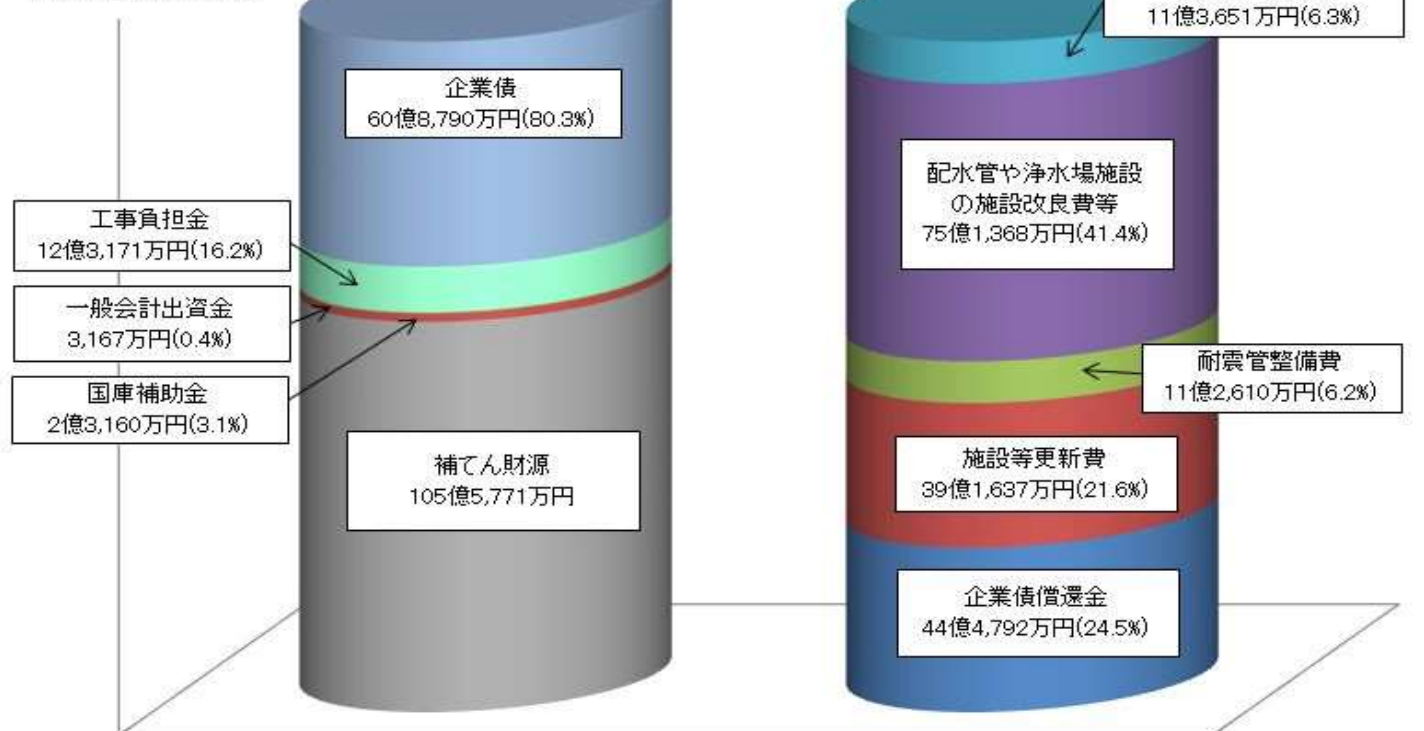
税込

【資本的収支】…水道施設の整備などに必要な工事費などの投資的経費とその財源となる企業債などの収支状況

収入合計75億8,288万円

支出合計181億4,058万円

()内は構成比、
金額は4年間の合計額



①重要給水施設管路耐震化事業（11億2,610万円）

地域防災計画等を参考に、災害時に特に重要と考えられる施設(災害拠点病院4箇所、災害対策本部など9箇所)を重要給水施設と位置づけ、災害時でも給水できるように供給ルートの耐震化を図ります。

下記13施設の耐震化工事を引き続き行い、R7年度中に事業が完了する見込みとなります。

※事業費

(R4:329,600千円 R5:358,700千円
R6:238,300千円 R7:199,500千円)

重要給水施設一覧

No	施設名	前橋市地域防災計画等位置付け	完了予定年度
1	群馬県庁	群馬県災害対策本部	R3
2	前橋市役所	前橋市災害対策本部	R4
3	前橋市消防局中央消防署	消防警戒本部	R7
4	前橋市水道局	水道局災害対策本部	R2 完了
5	前橋市役所大胡支所	現地災害対策本部	R3
6	前橋市役所宮城支所	現地災害対策本部	R6
7	前橋市役所粕川支所	現地災害対策本部	R7
8	前橋市役所富士見支所	現地災害対策本部	R6
9	ヤマダグリーンドーム前橋	防災物流拠点	R3
10	前橋赤十字病院	基幹災害拠点病院	R7
11	群馬大学医学部附属病院	地域災害拠点病院	R1 完了
12	群馬県済生会前橋病院	地域災害拠点病院	R7
13	群馬中央病院	地域災害拠点病院	R6

②鉛製給水管残存地区布設替事業（24億6,709万円）

鉛製給水管の解消対策については、配水管布設替工事や漏水修繕工事に併せて順次給水管の取替えを進めていますが、R1年度から鉛製給水管が多く残存する地区を対象として重点的に布設替を実施しており、R7年度に事業が完了する見込みとなります。

※事業費(R4:529,998千円 R5:564,306千円 R6:673,936千円 R7:698,858千円)

③配水管等改良事業（37億320万円）

配水管整備計画に基づく管網整備、都市計画事業や下水道事業など他の事業に関連した配水管の布設替工事、市民の方々からの要望による配水管の新設や水圧増強工事などを実施します。

※事業費(R4:1,165,997千円 R5:1,050,766千円 R6:810,825千円 R7:675,618千円)

①～③の事業により、管路更新率を0.6%に引き上げます。(現行:約0.4%)

④施設更新事業（39億1,637万円）

市内34箇所の浄水場、8箇所の受水場など多数の水道施設が更新時期を迎えるため、費用の平準化に努めつつ計画的な更新事業を進めます。また更新の際には施設の統廃合、ダウンサイジングなどの手法も取り入れ、さらなる施設運営の効率化を目指します。

敷島浄水場

主なもの

【敷島浄水場】

R2:新配水塔完成 R4～:配水池工事

R7～:電気ポンプ室工事 R10～:供用開始

【荻窪受水場】

R3～:施設整備工事 R6:管路工事

【中之沢浄水場】

R3～:詳細設計 R5～:施設整備工事



※事業費(R4:616,855千円 R5:1,341,332千円 R6:1,141,675千円 R7:816,510千円)

老朽化した施設を計画的に更新することで、災害に強い水道を構築します。